

# Weekly Report

創立：1980年(昭和55年)1月10日  
 会長：稲葉 徹  
 幹事：大嶽 達郎  
 クラブ広報委員長：鈴木 健司  
 例会日：毎週木曜日 PM12:30~  
 会場：ビルドン名古屋



ロータリー：  
変化をもたらす

2017~2018年度  
国際ロータリーのテーマ  
ロータリー：変化をもたらす  
(ROTARY: MAKING A  
DIFFERENCE)

2017~2018年度  
名古屋瑞穂ロータリー  
クラブ会長のテーマ  
ロータリーの品格を高めよう!

事務局：460-0008  
 名古屋市中区栄1丁目3-3/AMMNATビル7F  
 TEL：052-211-3803  
 FAX：052-211-2623  
 MAIL：2760\_nagoya@mizuho-rc.jp  
 URL：http://www.mizuho-rc.jp/

## 第1804回例会

~基本的教育と識字率向上月間~  
 クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2017年9月28日(木) 曇り 第12回

司会：花井芳太郎会場委員  
 斉唱：「日も風も星も」

### 会長挨拶

稲葉徹会長

皆さんこんにちは。先日胃カメラによる胃の検査を受けてきました。胃カメラは初めてではないのですが、何回受けても嫌なものです。私が毎年受診しているM先生(大変胃カメラの操作が上手な人です。)によると、胃カメラを楽に受けるにはちょっとしたコツがあるというのでここにご紹介させていただきます。



M先生によると胃カメラを楽に受けるには、なんといっても呼吸が一番大事だそうです。普段と同じようにゆっくりした呼吸を続けることができればカメラも十分我慢できるとのことです。ゆっくり、しっかり、力強く、息を吐くことがコツとおっしゃっていました。

M先生の体験談を先生の出版された本の中に、満員電車の中での過呼吸状態の若い女性の話がありました。先生が朝の満員電車に乗っていた時、押し込まれてきた人の中に激しい息遣いをする人がいました。荒く激しい呼吸の後に手足がしびれ動けなくなる過呼吸症候群とも呼ばれる病気とのこと。一部の人はパニック障害やうつにもなりやすい病気とのこと。放っておけないので先生は向き直って大丈夫だよと声をかけたそうです。その人は不安な顔つきで先生の方を見ます。左手でその女性の左の二の腕をつかみ、もう一度心配ないと声をかけ、ゆっくりと息を吐いて、もっとゆっくりと自分でもゆっくり息をして見せます。やがて少しホッとしたのか喘ぎながら「なんとかS駅まで行きたいのですが」と声をしぼります。大丈夫心配ないよと答え、ゆっくりと息を吐いて見せ、その後安心したのかS駅に着く頃には普通の呼吸に戻ったとのこと。

先生によれば、人間の脳は一日に10数万件もの項目を想起するそうで、そのうちの大部分は過去の出来事に対する後悔と将来に対する不安で占められているといえます。そのため多くの人は疲れ切ってしまう、本来の力が出せない、肝心の「今、ここ」がおろそかになると言います。

胃カメラによる検査も私を感じる不安を、M先生は抱き枕で私の腕の位置が安定するようにし、検査中は私の気分が少しでも楽になるよう看護師さん(年配のベテランの人)が背中を撫でます。検査中は先生は鼻歌や口笛を吹いて(多少音程をわざと外すそうです)私をリラックスさせてくれます。そのお蔭で胃カメラの検査をなんとか終わることができるわけです。2012年の統計によれば人口10万人当たりガンの発生数は胃ガンが108人(年間13万人)だそうです。大部分の胃ガンはM先生によると内視鏡検査で問題なく見つかるそうなので皆様も検査を嫌がらずに受けてもらいたいと思います。私も今年もお蔭様で何事もなく、お酒を安心して飲みそうです。

### 出席報告

星野一郎出席委員

会員64名 出席48名 (出席計算人数48名)

出席率 85.7% 9月7日は補填により 88.9%

### ニコボックス

星野一郎ニコボックス委員

- 9月10日は私の誕生日でした。忘れてました。松田さんイニシエーションスピーチ楽しみにしております。 鈴木 淑久さん
- 妻の誕生日にステキなお花をいただきありがとうございました。 鈴木 実さん
- 月曜日にぎふ美濃でプロアマチャリティーを行いました。大勢の方に参加頂き有り難うございました。80万円の義援金が集まり、子供甲状腺癌の基金に送りました。 内田 久利さん
- 松田さん、イニシエーションスピーチ楽しみにしています。 関谷 俊征さん
- 松田さん!卓話!楽しみにしてまーす。 梅村 昌孝さん
- 松田さん楽しいお話期待しています。 堀 慎治さん
- 本日はイニシエーションスピーチです。普段あまり人前で話をする機会がありませんので緊張しております。お聞き苦しい卓話をどうか皆様お許し下さい。よろしくお願ひします...。 松田 浩孝さん

### 幹事報告

大嶽達郎幹事

- 本日13:40より定款・変更プロジェクト会議を事務局にて行います。
- 次週10月4日(水)にガバナー公式訪問を名古屋観光ホテル2階「曙の間」にて行います。
- 10月5日(木)は振替により例会変更となります。

### 卓話

松田浩孝さん

### 新会員イニシエーションスピーチ

今年2月に名古屋瑞穂ロータリークラブに入会させていただき、早8ヶ月が過ぎようとしております。日頃は親しくしていただきましてありがとうございます。この場をお借りして感謝申し上げたいと思います。

さてイニシエーションスピーチの機会をいただいたので私の経歴の紹介と生業の部分について振り返り、印象的だったことについてお話をさせていただこうと思います。私は1961年2月12日生まれ。56歳になります。現在豊明市在住。家族は妻と29歳、27歳の2人の独身の息子と猫2匹の構成でございます。現在熱田区花表町、熱田税務署の前、伊勢屋というとんちゃん屋さんの隣のビルの2Fでインテリアデザイン・施工を行う会社を経営しております。

私が生まれた1961年という年はどういう年だったかといいますが、ジョンFケネディが大統領に就任、「地球は青かった」で有名なソ連のガガーリンが地球一周の有人宇宙飛行に成功。日本では池田内閣が1960年にスタートし、高度経済成長期に突入した正に今のNHKの朝ドラ「ひよっこ」の時代とラップする時期でありました。この年に銀座の恋の物語、上を向いて歩こうがヒットし、大鵬・柏戸が揃って横綱になりシャボン玉ホリデーなどもこの年にスタートしたそうです。

私が生まれた町は岐阜県土岐市下石町といえます。土岐市というのは今でこそ土岐プレミアムアウトレットなるものができて県外から若い方々が買い物などで多数来られますので東濃地域では県外来場者数が一番多い市になったそうですが、従来はいわゆる美濃焼の町です。子供の頃は住民のほとんどが陶磁器産業に従事しており輸出産業として田舎ながらに賑わっていた印象でしたが、今は残念ながら街自体は人口も減り、過疎化して寂しい印象の町になってしまいました。私の実家も家の隣に工場をもち、そこで釜焼きをしておりました。主にマグカップを焼いておりました。



地元の小・中・高校を卒業し、南山大学文学部教育学科(ちなみに現在は人文学部心理人間学科というそうです)に進学いたしました。大学では教育学科実験心理学先攻でした。部活は体育会自動車部に4年間所属しました。自動車部では主にラリー競技をおこない当時スバルレオーネで学生ラリーや一般ラリーに参戦しておりました。成績は自分でいうのもなんですが…結構優勝しました。当時は夜な夜なドリフト練習に出掛けて腕をみがいておりましたが、今はもう安全運転ですのでこの話はこれくらいで本題に入っていきます。

さて1983年に大学を卒業して就職する時期となります。大学に進むころには実家の工場ももう閉鎖しておりましたので家業を継ぐという選択は無く、縁に導かれるように名古屋市西区に本社がある株式会社サンゲツに入社いたしました。サンゲツという会社を少し紹介させていただきますと、創業は嘉永年間で元々は名古屋城の城下街で表具師をしていたようです。その後襪紙の販売会社となり、先代の日比喜昭社長の時代に壁紙、カーペットなどの床材、カーテンなどを企画販売する専門商社に事業変換し、現在は東証一部上場、売上1200億円超えのインテリア業界ではNo.1企業に成長しております。

最初は営業職でゼネコンやハウスメーカーの下で材料と職人の確保にあけくれた時期を過ごしましたが、入社8年目から開発事業の仕事に配属替えとなりました。どういう仕事かと申しますと、サンゲツの商品では飽き足らないユーザーたとえばホテル、結婚式場、ゴルフ場クラブハウスや大型プロジェクトの案件でオンリーワン商品をオーナー、設計士に提案していく業務になります。サンゲツ時代一番印象深かったのがリゾートトラストが展開するエクシブシリーズの琵琶湖です。

1996年創業なので今見ると古臭く感じるインテリアですが、この地区ではじめてインテリアデザインをアメリカのインテリアデザイン会社ハッシュ・ベドナー・アソシエイツ(以下HBA)が担当し、今までの営業アプローチが全く通じなくなる中で苦闘した経験が印象深く残っております。HBAは他にもリッツカールトン大阪、シャングリ東京、フォーシーズンズ京都などのインテリアデザインを手がけております。この物件は安井建築設計・熊谷組施工という体制でスタートしましたが、安井設計はインテリアについてほぼノータッチで、ハッシュベドナーがリゾートトラストの開発部にプレゼン提出してくるというスタイルでした。リゾートトラストの開発部からロサンゼルスHBAにカタログ1式を送ってみたいと了承をもらいロサンゼルスまで送りましたが、すべてのインテリア商材の中でベッドスカートのみグリーンとゴールドのストライプ柄の生地が選定されただけで、あとはすべて海外のインテリアファブリックメーカーの商材がスペックインされてきました。しかもリゾートトラスト以外の関係者にはサンプルが出回らないように3センチ角くらいのチップしか入手できない状態です。

壁紙、カーペットは建築工事区分でしたので、熊谷組とタイアップして、日本の建築基準法のルールを説明し、日本の基準で製造することにOKをもらい、類似デザインを起こしHBAより「壁紙は背景だから変更を許可する」ということで国産化の了承をもらったわけですが、カーテン・ファブリック系の施主発注区分、業界用語ではFFEと呼んでおりましたがファブリック、ファニチャー、エクイップメントつまりカーテン、リネン家具備品についてはゼネコンが関与しないため直接交渉が必要となるわけです。アメリカではインテリアデザイン会社が設計指定した商品が採用され購入されますと、メーカーよりデザイン会社にフィーが入るシステムになっていたようです。ましてや当時世界一の実績を誇る事務所ですのでプライドもあります。

最初に国内の輸入商社にスペックされている商品の見本とコストの確認作業から入りました。リゾートトラストの開発担当者に「カーテンをスペックどおりに仕入れると2億円くらいかかりますが大丈夫?」と話をすると、予想通り予算オーバーの返事がありましたので、ここから変更作戦開始となりました。但し当時サンゲツには海外デザイン事務所とのやりとりをした経験者はなし。従いまして独力で対応することになります。

まず入手した見本を元に似て非なるデザイン作成に着手。それと同時に国産にアレンジした場合の仮予算算出を進めます。そしてHBAへの手紙をタイプライターで作成。内容としては確か「スペックインの内容に添って積算しましたが予算が全く合いません…また海外製品は日本の消防法の防災製品認定をクリアしていないので、どうか当方で日本の企画にあったデザインアレンジ、製作をさせてください。」的なものだったと思います。このやり取りは1995年ですから世の中ではウィンドウズ95が世にでてきたばかりでまだサンゲツにもオフコンはありましたが、パソコンらしきものは無く、電子メールもありませんでした。

自分で辞書を片手に英文を作成しタイプライターを打ち、ロサンゼルスにデザイン画と試作品を郵送。神様に祈る気持ちで連絡を待ちました。一向に返事なく…。2/15よりFFE工事開始なのに12月になっても返事はなく生きた心地がしない中、設計事務所ルートでHBAより年末ギリギリになって返事がありました。内容は「HBAが指定したメーカーすべてからデザインを模倣することの了解をとりなさい。」というものでした。ここまでくると訴訟問題に発展する恐れもありますので、当時企画開発の責任者だった故日比社長の元にデザインをもって報告にあがり相談をおこないました。デザインを比較しながら社長がこういいました。「松田君、バラの絵も唐草の絵も古今東西いろいろの人が書いてきてるよな…似ることだってあるだろう。このまますすめなさい。」これでGOとなり、年明けから生地製作工場、縫製工場をフル稼働し1億円の予算内に収め、まわりをハラハラさせながらも無事オープンに間に合わせることができました。これ以来外資のホテルの進出ラッシュとなりましたが、サンゲツ内にノウハウの蓄積ができたのではないかと考えておりますが、一番心臓に悪い仕事として強烈に印象深く残っています。

ただ、その後1998年12月末でこのサンゲツを退社し、翌1999年1月に昭和区で株式会社スペースシアを設立し、独立することになります。このころから、インテリア材料の販売ではなく、空間をつくることをやってみたいと思うようになります。スペースシアという社名は「スペース・クリエーション・フォー・アドバンス」進化する空間をつくり出すというコンセプトをもって設立したわけで、この約19年間商業施設、レジデンス、病院クリニック、オフィスと主にリノベーションを中心に仕事をしております。

この中で2015年に犬山市羽黒で施工した古民家再生事業についてご紹介したいと思います。この住居は築120年の家屋で築140年の蔵を併設する物件です。施主は60代の御夫婦でとくにセキスイハウスで建てた住居にお住まいなのですが先祖代々からの住居を再生したいという意向でした。住友林業と私どもで相設計、相見積という形でコンペ形式となり、最終当方に決定いただいたものです。大屋根だけは伏せかえて間もないということでしたので現況のままとし、耐震・断熱に関しては今の数字で実証できるように建築基準法に則って計画しました。既存宅を一般診断法で測定したところ、0.23という「倒壊する可能性が高い」と判断される数値結果でした。1.5以上で「倒壊しない」という判断基準のため、1.5以上を目指して計画を行ないました。1・2F共に1.5以上の評価まで引き上げた上で、更に制振ダンパーも導入しています。また地震、災害対策として蔵の上に太陽光発電システムを載せた上で蓄電池もビルトインしております。断熱性能については外壁断熱と断熱ガラス+インターサッシ+防犯硝子+全館空調システムを導入しています。

この仕事で一番大変だったのは、家をジャッキアップした上で基礎を造作した工事でありました。通常造成→基礎→土台伏せ→建方と進みますが、今回は解体→ジャッキアップ→造成→土台取付→基礎とかなり難易度の高い工事となりました。これがその工事経過写真です。改装前→ジャッキアップ基礎工事→完了写真です。これが完了写真です。この後、蔵に併設していた倉庫を茶室にコンバージョンする仕事も行っており、まさに初物づくしの仕事でありました。日本ではこれまでスクラップ&ビルドが主流でありましたが、昨今マンションなどでは築古を購入してリノベーションして住むというスタイルが都市部を中心として広がってきております。100年超の住宅もこうして蘇りますのでその事例として紹介させていただきました。

仕事につきましては何歳になっても毎回勉強だなと感じます。特に建築の仕事は毎回施主も様々、要望も様々、形・条件・予算も様々でいつも応用問題を解いている感じです。それだけに面白みも感じている今日この頃でございます。

最後にこうして縁あって名古屋瑞穂RCに入会させていただきました。ここ名古屋瑞穂RCの先輩方、また私より年齢はお若い方が精力的にご活躍の皆様から刺激をいただきながらこの先も成長できればと思う今日この頃です。本日はご清聴ありがとうございました。



## 例会のご案内

- 今週の行事 10月4日(水) ガバナー公式訪問  
場 所：名古屋観光ホテル
- 次週 10月5日(木) 振替により例会変更
- 次々週 10月12日(木) 振替により例会変更